

# 中央発條株式会社

証券コード：5992

**CHUHATSU**  
CHUO SPRING CO.,LTD.



## 第101期 中間報告書

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

技術と情熱が創り出す価値ある商品を未来へ世界へ

# 株主の皆様へ



株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第101期中間期（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 小出健太

2023年11月

はじめに、本年10月16日に当社藤岡工場において発生した爆発事故により、株主の皆様をはじめ、お客様、行政その他多くの関係者の皆様に多大なるご迷惑・ご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げますとともに、復旧へのご支援・ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

2023年度第2四半期累計期間の業績につきましては、売上高が前年同四半期に比べ69億4千1百万円増収（16.0%増）の503億4千4百万円となりました。この売上高は鋼材高騰の売価反映と為替変動の影響等約36億円を含み、実質的な売上高の増収は33億円となりました。

損益の状況につきましては、営業利益が3億4千万円増益（99.8%増）の6億8千1百万円となりました。売上高の増収影響、合理化改善努力による増益効果が、鋼材・資材・動力光熱費のインフレ影響、新製品開発に対する研究開発費及び従業員の生活レベル向上のための人的投資など「意志ある固定費増」を上回り、増益となりました。合理化改善としては、直材調達において単なるコスト比較を超えた仕入先の工程改善を支援し、仕入先とともに原価を下げる取り組みをグローバルで推進するなど従来の枠を超えた活動にチャレンジいたしました。また事業構造改革を実施している北米地域では第1四半期に続き、黒字を確保しております。今後はチャレンジ的な原価低減活動をグローバルレベルで継続し、収益向上につなげてまいります。

経常利益は2億1千2百万円増益（前年同四半期比10.4%増）の22億5千6百万円となりました。基本自己資本によるグローバルオペレーションを実施しており、為替が円安方向に振れ、

外貨保有資金に対し営業外利益効果が出たため、増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は14億1千4百万円（前年同四半期比28.6%増）となりました。

新製品、新技術の開発としては、操縦安定性と悪路走破性を両立させる新型スタビライザ「SDM」を量産開始いたしました。また電動化対応では、主要取引先の中国におけるバッテリーEV戦略車に対し、当社のシャシばねが採用されております。さらに、非自動車分野へのビジネス拡大に関しましては、自動車用ばね・コントロールケーブルの開発、製造で培ったコア技術を活かし、鉄道分野での「レール締結用ばね」、ヘルスケア分野での「車いす牽引装置」の生産を開始いたしました。

最後に、今回の事故につきましては、原因究明と対策実施、修復作業、バックアップ生産体制の整備を行い、被災した工程の完全復旧と挽回生産に取り組み、生産体制の復旧はほぼ完了しております。

この事故による当期業績（売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する純利益）への影響額につきましては、現時点では不確定要素が多く、業績への影響を合理的に見積もることが困難なため、2023年4月26日に公表した2024年3月期の通期連結業績予想および期末配当予想につきましては未定とさせていただきます。

今後、業績への影響額が判明し次第、改めて開示いたします。

今後もクリエイティブカンパニーとして信頼され続ける『100年企業』を目指し、『社会』と『人』に優しい持続的に企業価値を高め続けられる会社づくりに邁進いたします。

## TOPICS

### ● 非自動車分野へのビジネス拡大 —鉄道・ヘルスケア—

自動車用ばね・コントロールケーブルの開発・製造で培ったコア技術を活かし、鉄道分野での「レール締結用ばね」、ヘルスケア分野での「車いす牽引装置」の生産を開始いたしました。



車いす牽引装置  
「JINRIKI QUICK3」



レール締結用ばねについては、2016年から行ってきた拡販活動が実を結び、試験敷設評価をクリアし、念願の量産化を迎えました。

車いす牽引装置は必要な時に任意の車いすに装着することで身体を自由を制限される方でも自由な行動を可能にします。

今後も企業理念である「創る技術を社会に活かす」ため、自動車部品のみならず非自動車分野の開発を進め、安全・安心な社会づくりへ貢献してまいります。

## TOPICS

### ● 陸上部活動 —MGC出場結果—



入場シーン  
左：橋本 右：吉岡



ゴールシーン  
上：吉岡 下：橋本

10月15日(日)当社陸上部員の吉岡・橋本がマラソングランドチャンピオンシップ(MGC)に出場いたしました。結果は吉岡38位、橋本42位となり、残念ながらパリオリンピック出場とはなりませんでしたが。

この経験を糧に、次はニューイヤー駅伝に向けてチームとして取り組んでいきます。ニューイヤー駅伝は来年で10年連続出場となります。創部70年でもある節目に、歴史を動かす、心を動かす走りができるよう、準備してまいります。

## TOPICS

### ● 株主総会資料の電子提供制度と当社の対応について

第100期報告書でご案内の通り、次回以降の招集ご通知は、一部を除き書面交付請求された株主に限り書面でお送りする予定です。

次回以降も継続して全ての内容を書面でお受け取り希望される株主様は、**2024年3月31日**までに書面交付請求のお手続きをお願いいたします。

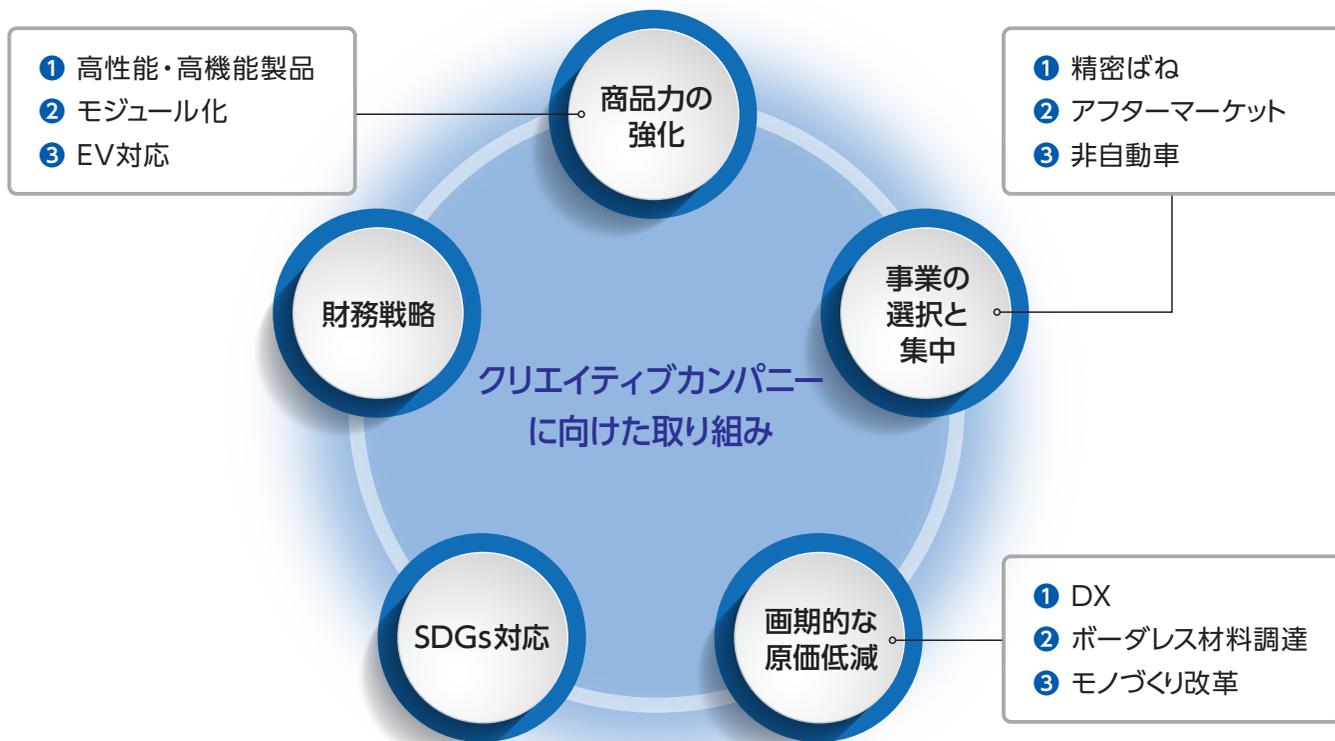
株主総会資料の電子提供制度に関する  
お問い合わせ先

**三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部**  
電子提供制度専用ダイヤル **0120-696-505**  
(受付時間：土・日祝日を除く平日9:00~17:00)

# 中長期経営計画の策定のお知らせ

中央発條株式会社は、2023年5月31日に2023年度から2027年度までの中長期経営計画を策定・公表いたしました。

自動車業界が100年に一度の大変革期を迎える中、『クリエイティブカンパニー』としてクルマの“楽しさ”や“快適性”など新たな価値を創造し、企業価値の最大化を図ってまいります。



2028年3月期 (2027年度)		
経営指標	売上高	1,000億円以上
	営業利益 (営業利益率)	50億円 (5%)
	ROE	5% 以上

※中長期経営計画の詳細については、当社ホームページに掲載しております。

(<https://www.chkk.co.jp/wp-content/themes/chkk/pdf/IR/download/20230531.pdf>)

# ビジネス拡大への取り組み

## 新製品・新技術の開発 —SDM—

従来自動車の左右輪をつなぐスタビライザを左右に分割し、中央に接続することのできる機構を付与し、オンロードでの操縦安定性とオフロードでの悪路走破性の両立、さらには乗り心地向上に貢献する「SDM」を量産開始しました。本製品は、本年8月に世界初公開された新型ランドクルーザー“250”シリーズに採用されております。

高性能・高機能製品として、今後当社の収益に大きく貢献する製品です。今後はさらに車両サイズに合わせたバリエーションを拡大させ、商品力の強化を図ってまいります。



写真提供：トヨタ自動車株式会社様



SDM (Stabilizer with Disconnection Mechanism)

## 当社の製品がEV車に採用

BYD TOYOTA EV TECHNOLOGYカンパニー 有限会社と一汽トヨタ自動車有限会社が共同開発したセダンタイプのバッテリーEV「TOYOTA bZ3」へ当社のシャシばねが採用されました。

自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えておりますが、当社の主力製品であるシャシばねはエネルギーソースが変化しても変わらず必要となります。その強みを活かし、既存製品の拡販・EV関連新製品開発・EVアクセサリーの3本の柱でEV化への取り組みを強化させていただきます。



写真提供：トヨタ自動車株式会社様

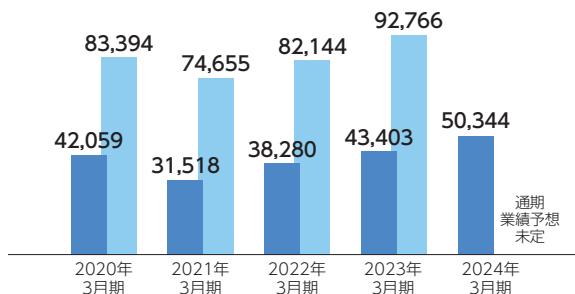
# 決算概要・連結業績ハイライト

■第2四半期 ■通期 (為替レート(USD/JPY) 2023年3月期:133)

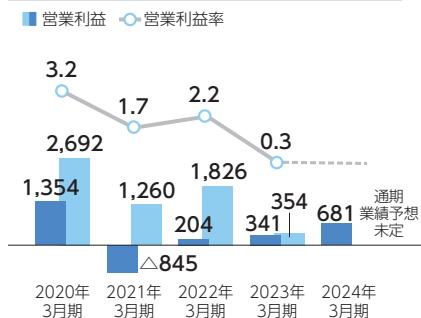
## 連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	2024年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上高	50,344	43,403
営業利益	681	341
経常利益	2,256	2,043
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,414	1,099

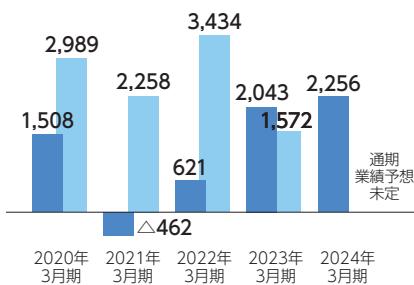
## 売上高 (単位:百万円)



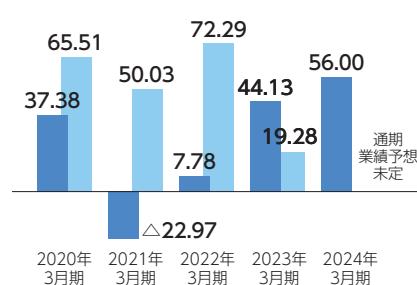
## 営業利益 (単位:百万円) / 営業利益率 (単位:%)



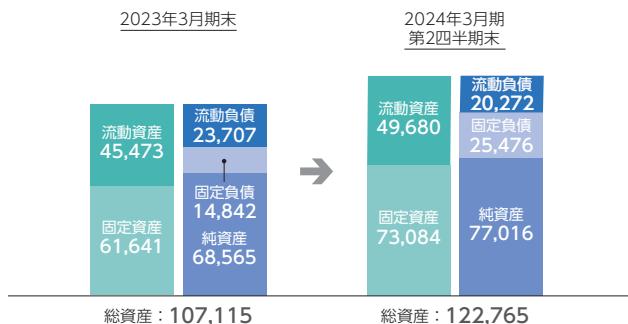
## 経常利益 (単位:百万円)



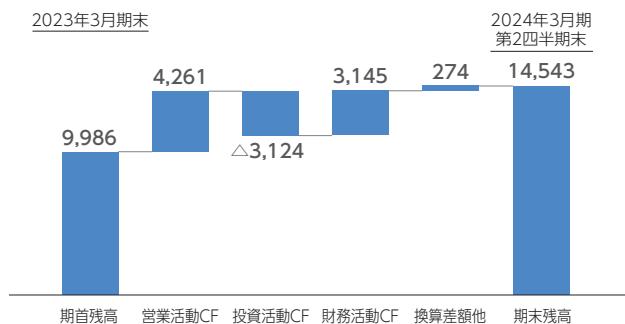
## 1株当たり当期純利益 (単位:円)



## 連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)



## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)



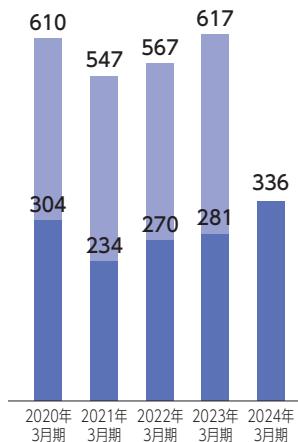
(注1) 2021年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

(注2) 2023年10月16日に発生した事故により、当期業績(売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する純利益)への影響額につきましては、現時点では不確定要素が多く、業績への影響を合理的に見積もることが困難なため、2023年4月26日に公表した2024年3月期の通期業績および期末配当につきましては未定とさせていただきます。今後、業績への影響額が判明し次第、改めて開示いたします。

## 地域別セグメント売上高 (単位：億円)

### 日本

■ 第2四半期 ■ 通期



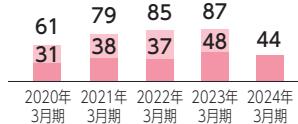
### 北米

■ 第2四半期 ■ 通期



### 中国

■ 第2四半期 ■ 通期

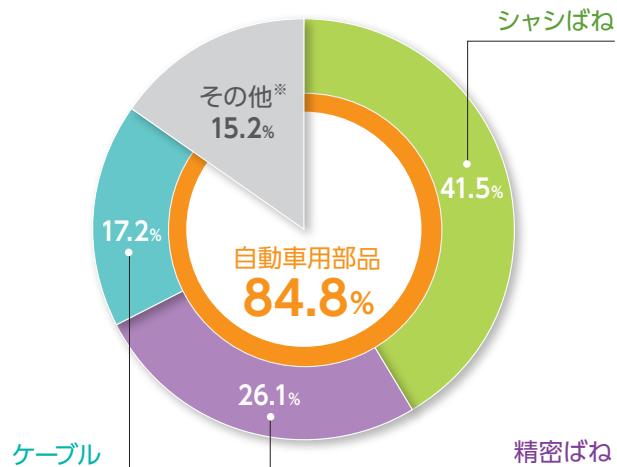


### アジア

■ 第2四半期 ■ 通期



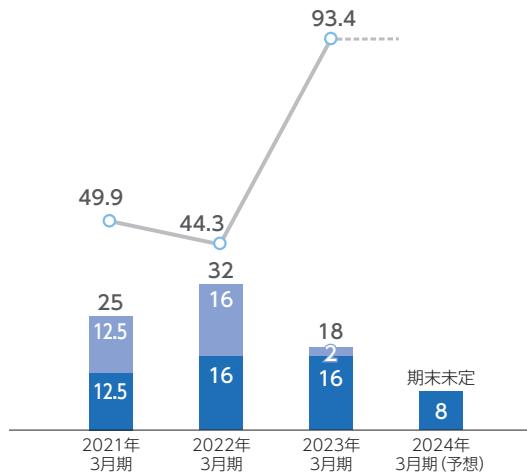
## 製品別売上構成



※その他には自動車用品・建築用部品他を含んでおります。

## 1株当たり配当金 (単位：円) / 配当性向 (単位：%)

■ 中間期 ■ 期末 ○ 配当性向



## 会社概要

設立	1948年12月25日
資本金	108億3,720万円
従業員数	連結：4,433名 単独：1,560名
製品区分	自動車用部品(シャシばね、精密ばね、ケーブル)、 その他(自動車用品・建築用部品他)

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 <sup>(注2)</sup> 9月30日
公告方法	電子公告 ※決算公告に代えて、貸借対照表および 損益計算書は、金融商品取引法に基づ く有価証券報告書等の開示書類に関す る電子開示システム(EDINET)にて 開示しております。
株主名簿管理人 (連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
単元株式数	100株
証券コード	5992
上場取引所	東京証券取引所、名古屋証券取引所

## 株式情報

### 株式の概況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	25,542,396株
株主数	6,485名

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
トヨタ自動車株式会社	6,159	24.39
愛知製鋼株式会社	1,915	7.58
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	1,808	7.16
中発取引先持株会	1,401	5.55
中発従業員持株会 <sup>(注2)</sup>	1,056	4.18
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	686	2.72
株式会社三菱UFJ銀行	617	2.44
株式会社三井住友銀行	609	2.41
東京海上日動火災保険株式会社	454	1.79
第一生命保険株式会社	341	1.35

(注1) 持株比率は、自己株式(290,978株)を控除して計算しております。

(注2) 当社は当社および当社の子会社の従業員に対するインセンティブプランの実施に伴い  
2023年1月31日に中発従業員持株会を割当先として譲渡制限付株式としての自己株  
式338,688株の処分を行いました。

### 所有者別 株式分布状況

